

碩 心

社団法人 日本詩吟学院学風会 認可
神奈川 碩 心 会 発 行

4年8月現在会員数
逗子地区171名
葉山地区238名
大船地区48名
(合計) (457)

4年8月号(241号)
根 編 岸 集 岳 萃
中 村 集 岳 者 愛

平成四年度

碩心会理事会

日時 平成4年7月15日18時50分より
場所 逗子市桜山下会館

加藤(洵)常任理事の司会にて、加藤(相)副会長の開会の辞により開会。中村(愛)常任理事の指揮により「碩心会の詩」を合吟の後、根岸会長の、55周年記念吟道大会が盛會裡に実行出来た事に対し、協力した会員の皆様に心から御礼を述べたいとの言葉と、会員増強への更なる御協力をお願いしたいとの挨拶があり、次に三井相談役の、年に一度の理事会であるので、この機会に、会員の忌憚ない意見を聞かせて貰いたいとの挨拶があって議事に入った。

(議長団並に書記任命)

司会者が一任されて、議長に根岸会長、副議長に加藤副会長、書記に宇都宮本部理事が任命された。

(議事)

議長は出席人数が過半数(60名中43名)が出席していることを確認し、本理事会が成立

したことを報告した。

一、各地区長・部長の報告

逗子地区は千葉地区長より、葉山地区は三留副地区長より、大船地区は岩崎副地区長より、当該地区の報告があり、次に会計部は矢嶋部長から、教務部は竹石部長から、企画部は村田部長から、広報部は中村愛部長から、許証部は中村郵部長から、総務部は加藤洵部長から夫々、当該部の報告が要領よく報告されて諒承された。

二、平成三年度決算報告

及び監査報告並に承認

矢嶋会計部長から平成3年度の収支決算報告及び、教本特別会計の報告が詳細に説明され、鈴木萃会計監査の適性妥当なる旨の報告があつて異議なく承認された。

三、五十五周年記念吟道大会

決算報告及承認

引き続き矢嶋会計部長より55周年大会の収支決算報告が詳細に説明され、鈴木萃会計監査の適性妥当なる旨の報告があり、繰越金の処理については、60周年記念大会への繰越意見を踏まえて、新任される新執行部に一任する事で承認された。

四、平成四年度予算審議

本来、新年度の予算は、新役員が選任されてから審議されるべきだが、会員の承認を得て、便宣上先議することとして、矢嶋会計部長から平成4年度の予算案が説明され、若干の質問があったが、原案通り承認された。

五、任期満了による役員改選

議長から役員改選の方法について諮った処議長に一任したいとの動議が出され、会員の賛成を得て、議長から役員改選の案が発表され、異議なく満場の拍手の中に承認された。

- 会 長 根岸岳幸 会計部長 矢嶋悦岳
- 副会長 加藤岳相 企画部長(新)綾部秋岳
- ” (新)千葉岳関 逗子地区長(新)村田澁岳
- 相談役 三井岳瓏 葉山地区長 沼田義岳
- 総務部長 加藤岳洵 大船地区長 木村松岳
- 許証部長 中村岳郵 会計監査 鈴木孝岳
- 教務部長 竹石岳泓 ” 鈴木幸岳
- 広報部長 中村岳愛

六、其の他

(1)加藤総務部長から入会届の書き方及び新入会員の納入金額一覧表を配布して説明がなされた。

(2)秋元参事より、県本部理事の交替について

この機会に公表して貰いたいとの希望あり、会長から、沼田岳雷、小峰岳海、森田暁岳、秋元梁岳の四氏に替り、綾部秋岳、村田澁岳、沼田義岳、木村松岳の四氏が理事となつた事が発表された。

(3)小峰参事から(1)新入会員の諸納金を一律にしてはどうか。(2)常任理事高齢者の参事制を廃止してはどうかの意見が出されたが、会長から懇親な事情説明と現行維持の方針が述べられ了承された。

(4)根岸会長から、総本部において会員増強にも関係する師範の資格審議、講習が緩和の方向で進められているので、具体化次第周知するとの話があった。

以上を以て議事が終了したので、正副議長及び書記を解任し、最後に竹石常務理事の閉会の辞にて8時20分理事会を終了した。

(宇都宮徳岳記)



◎ 常任理事会の開催について

とき・8月13日(木)午後7時より
ところ・桜山下会館

議題・各副部長、皆伝会代表幹事等の選任について。その他

◎ 9月行事

(碩心会秋期審議会)

とき・平成4年9月6日(日)
ところ・葉山・真名瀬会館

(祖宗範木村岳風先生四十年祭)
とき・平成4年9月13日(日)
ところ・九段会館

参加者・根岸岳幸、加藤岳相、加藤岳洵
千葉岳関、中村岳愛

新役員より挨拶

実績を汚さぬよう

副会長 千葉 岳 関

7月15日碩心会総会において副会長の御指名を受け、その任の重さに改めて身のひきしまる思いをいたしております。諸先輩に比し、

吟歴も浅く、また浅学非才であります、創立者松井岳洋先生以来の伝統を保持し、また、その後継者として、現在の大会に発展させた根岸岳萃先生の指導方針、並びに諸先輩の築かれた実績を汚さぬよう、誠心誠意頑張りたいと考えます。

それなりに会長を補佐すべき抱負的なことも二、三考えてはありますが、着任早々口幅たくなりますので、少々会内の現状を勉強いたしたる後のことといたします。

会員あつての会であるという信念と、入門当初の純心な気持ちを想い起している現状を申し上げて、とりあえず就任のごあいさついたします。

逗子地区をより一層築く吟道の場合

逗子地区長 村田 滯 岳

この度の役員改選で、千葉先生が逗子地区長から副会長になられましたので、私に逗子地区長をというお話がございました。

私には一寸重荷かな……と思いましたが、先輩の諸先生方から色々教えていただければ何とかなるかな……などと、持前の楽天的な考えで、終にお引受した次第です。

お受けしてみると色々な問題があり、大変な事と思いますが、今のところ健康に恵まれている事を感謝し、傾心会発展の為に、皆さんにお力添えをいただきまして頑張ってくださいと思います。どうぞ御意見など、もしどしどしお聞かせ下さいまして、御一緒に逗子地区をより一層築く吟道の場合としたいと願っております。どうぞよろしく御協力お願いいたします。

副部長と力を合せて

企画部長 綾部 秋 岳

うとうしい梅雨も明けて、暑い日が続いておりますが、皆様御元気で過ごしてでしょうか。

この度村田先生が逗子地区長になられ、企画部長の後任にとの話がありおどろきました。先任の村田先生は大変なお仕事を御立派に務められましたので、私には重荷でございますが、副部長さん始め、村田先生にも御指導いただきましてお引受けいたしました。少しでも傾心会のお役に立てばと思っておりますので、何卒よろしく御協力の程お願い申し上げます。

練吟メモ、愛と技を読んで

会長 根岸 岳萃

傾心6月号練吟メモで、会員の皆さんに誤解される個所がありますので、傾心会の在り方として一文を認めました。

お説の「吟技」、言葉の意味は解りますが「吟技」という言葉は学院にはなく、しきりに出ていると言われますが、私自身聞いたことはありません。

又「朗読する場合は節調の如きは全く意に介せず吟じて、その気分を味わう」とありますが、吟は文中の通り「作詩者の気分(即ち詩の心)で吟じます」が、岳風流統を基本にしなければなりません。

では流統とは、誰にでも吟じられ、且つ俗に流れず、媚に偏しない素朴な心の吟で、即ち詩の心を吟じることが岳風流であり、節調も全く勝手気ままではいけません。

吟道は礼に始まり、礼に終ると言われておりますが、礼とは心の中に溢れるばかりの尊敬と、感謝の念を抱いた時に表われる行動であり、言葉です。

又節とは礼の折りめのことであり、指導者は、その指導に当っては、常に先輩に対して、その礼を失ってはならないといわれています。即ち指導者、あるいは古参者も、自分自身、作詩者の心を学ぶ位置にあります。ただ指導者故に、古参者故に、初心者を読みする位置にあります。

祖宗範も松井岳洋先生も、教えるという言葉は使われませんでした。必ず「一緒に勉強しましょう」と言っておられました。指導者として、吟法のリーダーですが、自分も詩の心を勉強する位置に置かれたのです。

碩心会でも会のモットーの「人の和」を中心に、各支部の指導、運営にたずさわり、礼をもって楽しく、上下のへだてなく、吟道に精進して戴きたいと思えます。

終りに、碩心会の運営、指導に疑問をもたれたときは「碩心」は会の広報誌ですので、文責の観点から匿名は避けて下さい。

~~~~~  
別件ですが、平成3年6月号227号で、私が、「お願い」として投稿致しました友好の会に個人的に招待された場合は、会長に報告されるようお願い致しましたが、最近実行されて

いないふしがあります。

最近学院のある地方の会で、会長が知らないうちに、会員が他会の大会に出吟し、報告も連絡もしなかったため、会をあげての大問題となったそうです。先生方の意見は、出吟した会員も、招待した他会の会長も、連絡義務を怠った為と結論されました。他会に招待された時は報告されるよう、重ねてお願いします。

### 三つの大会に参加して

銀詠A 清田蓮岳

5月24日の逗子市立図書館ホールにて開催されました、創立30周年記念第25回詩吟詩舞発表大会に始まり、6月7日の創立55周年記念碩心会吟道大会、続いて14日第13回横須賀第二地区吟道大会と三つの大会に参加させて頂きました。

二〇二四年ばかり、健康上の都合で、各大会も殆んど参加出来ず残念に思っておりましたところ、今年はやっと病状も落ちついた様子で、医者からもストップがかからず順調なので、久しぶりに落着いた気分で大会に参加さ

せて頂きました。

総本部、県本部、其の他各流派の諸先生方のすばらしい吟を聞かせて頂き、懐しい吟の数々を聞きながら、ああこの吟は初伝の課題吟だった、又この吟は中伝の課題吟だったと頭の中で吟じていました。課題吟は集中して勉強したせいも、次から次と詩文が出てきます。やはり習うよりは慣れるの数多く吟じた分記憶に残っているのかも知れませんね。吟じながら「ああまだボケの方は大丈夫だな」と、自分で嬉しくなりました。

第二地区大会の最後に、千葉先生のお話の中で「会員の皆様がいるのであって、皆様なくては会は成り立ちません会員の皆様は神様です。どうぞ健康に注意して、何時迄も詩吟を続けて下さい」とのお話で、私は自分のことを重ねて「その通りですこれからも健康に注意し、出来得る限り詩吟を続けて行きます」と思わず心の中で呟きました。

有意義な三大会に感謝し、これからの励みとしつつ、吟道に精進したいと思えます。

# 李白 (盛唐の詩人)

(略歴)

(701~761) 姓は李、名は白、字は太白、号は青蓮居士、蜀(今の四川省)の出身といわれるが、諸説ある。異民族出身ともいわれる。諸国を歴訪し、42才頃に玄宗皇帝に仕える。しかし、その自由奔放なふるまいのため、二年ほどで追放される。安祿山の乱の時も、謀反のかどで流刑になるが、大赦により、放免され、以後再び流浪の旅にでる。のちに、当塗(今の安徽省)あたりで没したといわれる。

(詩風)

李白は酒と自由をこよなく愛し、その性格は豪放磊落、ロマンを追い求める詩人であった。その詩もスケールの大きいものが多く、天才的なひらめきを感じさせる。中国を代表する大詩人であり、後世、その詩風から「詩仙」と称されている。また、酒を大変好んだため「酒仙」ともいわれる。長編の古詩にも優れているが、「李絶杜律」(李白は絶句に優れ、杜甫は律詩に優れる)といわれるように特に絶句に優れたものが多い。また文章もよくし、「春夜桃李園に宴するの席」は有名。

## 漢文重要語彙

(数字に関する語)

- 一人……天子の自称・または尊称の二人称。
- 二氣……陰と陽の二つの気
- 三峽……長江の難所・西陵峽・瞿塘峽・巫峽。
- 三教……儒教・仏教・道教の三つの教え
- 三才……天・地・人のこと。
- 四書……儒家の重んじた四つの経典。「大学」「中庸」「論語」「孟子」のこと。
- 五經……儒家の重んじた五つの経典。「易経」「詩経」「書経」「春秋」「礼記」
- 五行……万物の根源となる五つの物質。木・火・土・金・水のこと。
- 五倫……人の守るべき道・君臣の儀・父子の親・夫婦の別・長幼の序・朋友の信。
- 六親……父・母・兄・弟・妻・子。
- 七情……喜・怒・哀・楽・愛・悪・欲の情。
- 七雄……戦国の七雄。秦・燕・斉・韓・魏・趙・楚の戦国時代の七つの強国。
- 八卦……易の八種類の卦。乾・兌・離・震・巽・坎・艮・坤。
- 九重……天子の宮殿。
- 十干……甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸。

## 月報ノ碩心ノ 21年目スタート

この8月号で24号……。早いもので、三井先生、加藤(洵)先生のあと、私が53年5月号から引継いでからも14年と4ヶ月が経ちました。綴った月報をめくると、過ぎし日の色々な事、色々な人が思い出され、又才月の経つことの早さをかみしめました。

今年役員改選の年に当たり、色々な観点から広報部長の交替を申し出たのですが、もう一期ということになりました。よろしく。

(入会)

655 片島千恵 横須賀市三春町一―二五

(唐木山) (電)〇四六八一二六一―四四五

(退会)

- 291 梶ヶ谷佳山 (上原) 298 関沢新山 (上原)
- 299 関沢光風 (上原) 300 関沢豊山 (上原)
- 322 梶ヶ谷沙山 (上原) 332 藤村桂山 (上原)
- 452 行谷喜平 (一色A) 475 上村蓬泉(死) (滝の坂)
- 563 草柳スミ (堀内・E)
- オリンピック真っつきかり……史上最年少の200米水泳の岩崎恭子、柔道の吉田、同じく左足の怪我にもめげず闘った古賀。世界一の金メダルの重みに、みている私も涙、涙……。